

■九州朝日放送番組審議会議事概要（5月分）

第573回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成27年5月11日（月） 午後3時30分～5時
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 7名 欠席委員数 1名</p> <p>（出席委員） 宇加治恭子副委員長 古宮洋二委員、宮田克彦委員 三好京子委員、松村茂雄委員 宇佐見昇委員、藤田ひろみ委員</p> <p>（欠席委員） 光富彰委員長（レポート）</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 武内健二 常務取締役編成制作局長 半田俊彦 取締役ラジオ局長 清水透 報道局長 佐伯拓史 編成制作局次長兼テレビ編成部長 臼井賢一郎 視聴者・広報室長兼番審事務局長 久芳康治 事務局員 都合信司、松田泰久</p>
議題	<p>福岡恋愛白書10 十回目の鈴がなるとき <放送日> 2015年3月27日（金）午後11時15分～午前0時15分</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成27年5・6月ラジオ・テレビ番組編成状況 平成27年4月視聴者・聴取者応答状況等の報告
議事の概要	<p>◎委員の意見の概要</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストーリーのベースは視聴者の体験談ということだが、一定の脚色はされているにしても、ドラマティックな展開で脚本もしっかりしていた。ローカル局でも在京局に負けないようなドラマ作りが出来ると感じた。 ○健康的で爽やかな物語、主人公を応援したくなった。 ○話の節目での鈴の音が効果的だった。 ○オール北九州ロケということでローカル色が良く出ていて親しみがもてた。特に門司港レトロ地区がドラマに良く映っていた。 ○小倉織は地味だが、このような形でもっと北九州をPRして欲しい。 などの評価を頂きました。 <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話がやや出来過ぎなのではと感じた。 ○話の設定と撮影時期に季節的なズレを感じた。 ○方言が不自然であり、中央のタレントに無理をして使わせる必要はなかったのでは。 ○「福岡恋愛白書」はタイトルとしては強いが、視聴者への訴求力は逆に弱いのではないか。PRの仕方にも問題があるのでは。 ○番組ラストの注釈文言「実話に基づくフィクション」の旨に違和感があった。 ○番組とコラボしたCMは面白いが番組本編との区別がわかりづらかった。 ○ストーリーの選定はどのような基準で行い、本当に実話なのか否かの判断はどのようにしているのか。 などの批評や提言を頂きました。 <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今回で10作目となるが、東京支社の営業企画番組として始まった。 ○例年、夏にPRしてストーリーを募集している。ストーリーの選定は社内外のスタッフ5名程度でおこなっている。実話か否かについては本人に確認している。 ○ロケは昨年12月初旬の寒波の中でおこない、撮影スケジュールへの影響から季節感にずれが出てしまった。 などの説明を行いました。